



門倉 博子選

空蟬の朝を迎へし高さかな

普通選

收穫を梅ジュースとし振る舞へり

蟻穴の出入に掟ありにけり

全身が汗に浸かつてゐる心地

炎帝の力及ばぬ大擗

野の草の瘦せて行きたる早かな

忠実な衛兵置きて蟻の穴

特選

空蟬の落ちぬ軽さのすがる幹

普通選

あれこれもねじれてしまふ日の盛り

收穫を梅ジュースとして振る舞へり

金亀虫樹液旨いか吾も舐めて

空蟬を遙かにしたる穴の数

ひと雨を欲しがってゐる草いきれ

病葉を四阿に寄せて見舞ふ風

木下 薫選

樹液まだ貪り足らぬ金亀虫

普通選

ひと雨を欲しがってゐる草いきれ

收穫を梅ジュースとして振る舞へり

青胡桃乳の香残る舌触り

指先で舐むる樹液や夏盛ん

空蟬の落ちぬ軽さのすがる幹

蟻穴に鈍き威光の蠢きを

特選

早天に土気を高めし葎かな

普通選

緑蔭に積み上げてゐる別世界

不本意に落ちし青胡桃の硬さ

青胡桃歯応へのなき若さかな

穴を出る蟻を待ちたる時間かな

初蟬の口調はつきり届き来る

ぼったの子広野の冒険始まりぬ

吉田 鈴江選

病葉を四阿に寄せ見舞ふ風

特選

裸子の四頭身の躍動す

青胡桃歯応へのなき若さかな

出る汗のまだあるのかと走る人

樹液まだ貪り足らぬ金亀虫

一族を守る気概を穴の蟻

万緑や溢れるほど樹液かな

中嶋 孝子選

大髯を撓らせ天牛様とほる

普通選

抱きかかへられて終りし水遊び

炎帝の力及ばぬ大擗

青ぐるみ割り青き味確かめり

乳色の母の味なるくるみの実

蟻穴の出入に掟ありにけり

秋近し森に知つたる昨日今日

福田 信子選

野の草の瘦せて行きたる早かな

普通選

空蟬の落ちぬ軽さのすがる幹

空蟬の朝を迎へし高さかな

病葉を四阿に寄せ見舞ふ風

一族を守る気概を穴の蟻

蜘蛛の囀る森走り抜く光かな

早天に土気を高めし葎かな

鈴木 涼美選

日盛や森は木影を重くする

普通選

蟻穴の出入に掟ありにけり

ひと雨を欲しがってゐる草いきれ

蟻穴に鈍き威光の蠢きを

どる遊びへと気は変わる水遊び

素っぴんで居る他はなき猛暑かな

ぼったの子広野の冒険始まりぬ

湧井 久恵選

空蟬の落ちぬ軽さのすがる幹

特選

空蟬を遙かにしたる穴の数

野の草の瘦せて行きたる早かな

万緑や溢れるほどの樹液あり

蟻穴の深さに威厳隠し持つ

口中に残るせつなき青胡桃

緑蔭や極楽よりの風届く

唯野 千代選

緑蔭に積み上げてゐる別世界

普通選

穴を出る蟻を待ちたる時間かな

切り口の匂ふ青さや夏盛ん

三重苦草木ねじれし早かな

一族を守る気概を穴の蟻

昼寝して午後を短くしてをりぬ

初蟬を内耳の声とききををりし

惠流句会

平成二十三年七月二十二日 (金)

於 桑町会館 二階

特選

友見舞ふ道は青田に変わり居り

連日の猛暑の宵の赤い月

肌に触る風清々し夕立あと

炎天のはるかに聳えスカイツリー

仙人掌の紅を尽くしていつせいに

観音の中は氷室に居る如し

塀囲む静かな住まひ百日紅

酢醬油を少し濃いめに心太

鏝広の姉の手作り夏帽子

鷺草の飛び立たむとす石の庭

平和への篝火であれ夾竹桃

酢漿草を吸ひて遊びし頃もあり

二つ三種のまじりて胡瓜もみ

涼 志

涼 志

涼 志

利 美

涼 美

孝 子

孝 子

孝 子

涼 志

孝 子

孝 子

久 恵

博 子

博 子

信 子

鈴 江

鈴 江

涼 志

涼 志

涼 志

秋 野

秋 野

秋 野

孝 子

孝 子

涼 志

涼 志

涼 志

涼 志

涼 志

信 子

信 子

信 子

信 子

信 子